



NIPPON SANZO HOLDINGS

2022年3月期 第2四半期決算説明会

(2021年9月30日に終了した6カ月間)

2021年11月11日
東京（日本）

The Gas Professionals

重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション」とは、本プレゼンテーションにおいて、日本酸素ホールディングス株式会社（以下、「日本酸素HD」）によって説明または配布された本書類、口頭でのプレゼンテーション、質疑応答及び書面または口頭等の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明および質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内もしくは勧誘、または、いかなる投票もしくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明または形成するものではありません。また、これを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより、株式または有価証券の募集を公に行うものではありません。本プレゼンテーションは、投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく、情報提供のみを目的として、受領者に使用されるという条件の下で、受領者に対して提供される追加情報とともに提供されております。この制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券関連法規の違反となる可能性がございます。日本酸素HDが直接的に、または間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「日本酸素HD」という用語は、日本酸素HDおよびそのグループ会社全般を参照するものとして便宜上使用されていることがあります。また、同様に「当社、当社グループ」という用語は、子会社全般またはそこで勤務するものを参照していることもありえます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることがあります。

・将来に関する見通し情報

本プレゼンテーションおよび本プレゼンテーションに関して配布された資料には、日本酸素HDの理念または見解、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジションおよび業績に関する将来見通し情報、見積もり、予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする」「計画する」「信じる」「望む」「継続する」「期待する」「めざす」「意図する」「確実にする」「だろう」「かもしれない」「すべきである」「であろう」「することができた」「予想される」「見込む」「予想する」などの意思や推量をあらわす用語もしくは同様の表現またはそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られません。これらの将来見通しに関する情報は、多くの重要な要因に関する前提や想定に基づいており、実績としてあらわれる業績では、将来見通し情報を通じて明示または暗示された将来の業績とは異なる可能性があります。その重要な要因には、国内外の一般的な経済条件を含む、当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の開発・出現、関連法規の変更、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、販売された製品または試験・候補製品の安全性または有効性に関するクレームまたは懸念等、新型コロナウイルス感染症のような健康危機が当社の事業を行う国・地域の政府を含む当社とその顧客および供給業者に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（Post Merger Integration:買収後統合）の時期及び影響、日本酸素HDの事業資産を売却する能力およびかかる資産売却のタイミング、当社のWebサイトにおいて閲覧可能な日本国の有価証券報告書関連法規に沿って提出された最新の年次有価証券報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。日本酸素HDは、関連法規や証券取引所の関連規制により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる情報または当社が提示するあらゆる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は、将来の経営結果の指針とはなりません。本プレゼンテーションにおける日本酸素HDの経営成績は、日本酸素HDの将来の経営成績またはその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証または見積もりではないことにご留意ください。

・国際会計基準（IFRS）に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、コア営業利益、EPS（1株あたりの当期利益）、有利子負債、純有利子負債、調整後ネットD/Eレシオ、フリー・キャッシュ・フローのように、IFRSに準拠しない財務指標（以下、「当社独自指標」）が含まれています。当社役員及び執行役員は、業績評価ならびに経営および投資判断をIFRSおよびIFRS以外の指標に基づき実施しています。当社独自指標においては、最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、または異なる数値となる一定の利益、費用およびキャッシュ・フロー項目を除外しております。当社独自指標を提供することで、当社役員及び執行役員は、投資家の皆さまに対して、当社の経営状況、主要な業績および動向のさらなる分析のための付加的な情報を提供したいと考えており、当社独自指標は、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆さまにおかれましては、当社独自指標について、これらによく対応するIFRSに準拠した財務指標との照合を行っていただきますように、お願い申し上げます。

・財務情報

当社の財務情報は、国際会計基準（IFRS）に基づき作成しております。

Agenda

1. 2022年3月期 上半期事業概況
2. 2022年3月期 通期事業見通し
3. 財務プロフィール
4. 質疑応答



代表取締役社長 CEO
濱田 敏彦



執行役員
財務・経理室長 兼 CFO
Alan Draper

1. 2022年3月期 上半期
事業概況

2. 2022年3月期 通期
事業見通し

3. 財務プロフィール

4. 質疑応答

1. 2022年3月期 上半期 事業概況



代表取締役社長 CEO
濱田 敏彦

要旨：通期目標に向けた進捗

コロナ禍から回復しつつある経済環境

- エネルギー・電力価格が上昇。特に、欧州が最も深刻な影響を受けている。
- 経済的な回復のペースは国によって異なり、ワクチンの進捗状況や政府による規制の度合いに左右される。

事業環境への迅速な適応

- 新型コロナウイルス感染症が比較的落ち着いてきた今期では出荷数量が増加している。
- レジリエンスの高いマーケットに向けて必要不可欠な製品を供給。
- 生産性向上、原価低減、価格改定による収益性維持・向上への対応。

HD体制* 運営高度化

- ホールディングスと各事業会社との間の強固で効果的なグループガバナンス。
- 中長期的に持続的な成長を実現するため、地域横断的な取り組み（エレクトロニクス、カーボンニュートラル、プロダクティビティ等）を積極的に推進。

* HD（ホールディングス：持株会社）体制：当社は、2020年10月1日に純粋持株会社に移行しました。日本ガス事業は、新たに設立した事業会社に継承し、「大陽日酸」ブランドで展開しています。

連結決算要約（上半期）

	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比		2022年3月期
	上半期	上半期	増減額	増減率	通期予想
(単位：億円)	(4-9月期)	(4-9月期)			(5月10日発表)
売上収益	3,845	4,473	+628	+16.4%	8,650
コア営業利益	367	498	+131	+35.7%	960
コア営業利益率	9.6%	11.1%			11.1%
非経常項目	-0	-0	+0		5
営業利益（IFRS）	366	497	+131	+35.8%	965
営業利益率	9.5%	11.1%			11.2%
税引前四半期利益	308	450	+142	+46.1%	860
親会社の所有者に帰属する四半期利益	210	342	+132	+63.3%	582
四半期利益率	5.5%	7.7%			6.7%
1株あたり当期利益（EPS）（円）	48.53	79.24	+30.71		134.49
為替レート（円）	USD（米ドル）	106.32			105
（期中平均レート）	EUR（ユーロ）	121.66			125

※2022年3月期（上半期）における為替換算による影響額合計：売上収益 +133億円 コア営業利益 +16億円

セグメント売上収益（上半期）

	2021年3月期	2022年3月期		前年同期比			2022年3月期
	上半期 ^{*1}	上半期	構成比	増減額	増減率	為替影響	通期予想
(単位：億円)	(4-9月期)	(4-9月期)					(5月10日発表)
日本ガス事業	1,589	1,732	38.7%	+143	+9.0%	+1	3,600
米国ガス事業	912	1,073	24.0%	+161	+17.7%	+32	1,980
欧州ガス事業	748	949	21.2%	+201	+26.8%	+58	1,730
アジア・オセアニアガス事業	483	589	13.2%	+106	+21.8%	+40	1,060
サーモス	110	128	2.9%	+18	+16.6%	+0	280
調整額	1	1	0.0%	+0	+0.1%		—
連結合計	3,845	4,473	100.0%	+628	+16.4%	+133	8,650

*1 組換え再表示：2022年3月期でセグメント区分の内訳組換えを実施したため、2021年3月期は新たなセグメント集計基準で再表示



セグメント利益*2（上半期）

	2021年3月期	2022年3月期		前年同期比		為替影響	2022年3月期
	上半期*1 (4-9月期)	上半期 (4-9月期)	構成比	増減額	増減率		通期予想 (5月10日発表)
(単位：億円)							
日本ガス事業	116	139	28.1%	+23	+20.4%	+0	311
セグメント利益率	7.3%	8.1%					8.6%
米国ガス事業	95	141	28.3%	+46	+46.9%	+3	236
セグメント利益率	10.5%	13.1%					11.9%
欧州ガス事業	86	127	25.5%	+41	+47.4%	+6	248
セグメント利益率	11.5%	13.4%					14.3%
アジア・オセアニアガス事業	52	66	13.3%	+14	+25.4%	+5	102
セグメント利益率	11.0%	11.3%					9.6%
サーモス	20	29	6.0%	+9	+42.1%	+0	74
セグメント利益率	19.0%	23.2%					26.4%
調整額	-5	-5	-1.2%	+0	—		-11
連結合計	367	498	100.0%	+131	+35.7%	+16	960
コア営業利益率	9.6%	11.1%					11.1%

*1 組換え再表示：2022年3月期でセグメント区分の内訳組換えを実施したため、2021年3月期は新たなセグメント集計基準で再表示

*2 セグメント利益：営業利益から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出したコア営業利益で表示

常に顧客から選ばれる存在になるために

顧客へ提供する要素

当社グループが想定する要素例

確かな
品質と安全

洗練された
製品と
サービス

速やかな対応

地域共通の課題

地域特有の課題



日本酸素ホールディングス

問題・課題の解決策を提案

持続的な成長を支える基盤づくり

効率的な事業活動



日本酸素ホールディングス

The Gas Professionals

お客さまから信頼される産業ガスサプライヤーとして、
ガスを作り、届け、安全にご利用いただくための基本的な活動を徹底するプロフェッショナル集団

【日本ガス事業】

太陽日酸グループ



TAIYO NIPPON SANSO
The Gas Professionals

Profitability Program

【米国ガス事業】

Matheson Tri-Gasグループ



MATHESON
The Gas Professionals

The Right Way Program

【欧州ガス事業】

Nippon Gases
Euro-Holdingグループ



NIPPON GASES
The Gas Professionals

Productivity Program

【アジア・オセアニアガス事業】

アジア・オセアニア地域
グループ各社



NIPPON SANSO
The Gas Professionals

Asia/Oceania Region Group Companies

Productivity Shiba Program

オペレーショナル・エクセレンスへの飛躍



日本酸素ホールディングス

【欧州ガス事業】



Productivity Program

(生産性向上のためのベストプラクティス)

重点的に挙げたい成果

- | | |
|------------|------------|
| 1 安全性の改善 | 4 原価の低減 |
| 2 信頼性の向上 | 5 生産性の向上 |
| 3 品質の向上 | |

実績のある成功したプログラム、
知識、構造をグループ全体で共有

【アジア・オセアニアガス事業】



Asia/Oceania Region Group Companies

2021年3月期 先行導入



オーストラリア インド フィリピン

2022年3月期 導入



ベトナム タイ

2023年3月期には、アジア・オセアニアガス事業
すべてのグループ会社で導入を予定

1. 2022年3月期 上半期
事業概況

2. 2022年3月期 通期
事業見通し

3. 財務プロフィール

4. 質疑応答

2. 2022年3月期 通期 事業見通し



代表取締役社長 CEO
濱田 敏彦

要旨：事業環境認識（見通しの前提）

2021年5月10日に発表した通期業績予想を維持します。

変化していく 事業環境

- ❑ エネルギー価格、世界的なサプライチェーンの混乱、労働力や資材の不足
- ❑ 新型コロナウイルス感染症で生まれた、地域により異なる新常态への事業会社毎のベストな対応

2022年3月期 下半期の 見方

- ❑ 年末まで電力コストは高止まりの見通し。コスト上昇を背景とした価格活動に注力
- ❑ 円安傾向が続くと想定
- ❑ 経済回復は継続し、上半期の業績は概ね想定の範囲内であり、下半期も同様の結果を見込む

通期予想値 達成に向けて 着実に前進

- ❑ 顧客毎の課題に対応し、信頼あるメーカーポジションを築く
- ❑ 新たな価値を顧客と創り上げる
- ❑ 社会の持続可能性向上に貢献し、顧客の環境負荷低減目標を支援する

連結決算見通し要約

	2021年3月期	2022年3月期	前期比		2022年3月期
	通期	通期予想 (維持)	増減額	増減率	通期予想 (旧)
(単位：億円)		(11月1日発表)			(5月10日発表)
売上収益	8,182	8,650	+468	+5.7%	8,650
コア営業利益	872	960	+88	+10.0%	960
コア営業利益率	10.7%	11.1%			11.1%
非経常損益	15	5	-10		5
営業利益 (IFRS)	888	965	+77	+8.6%	965
営業利益率	10.9%	11.2%			11.2%
税引前利益	777	860	+83	+10.7%	860
親会社の所有者に帰属する当期利益	552	582	+30	+5.4%	582
当期利益率	6.7%	6.7%			6.7%
1株あたり当期純利益 (EPS) (円)	127.59	134.49	+6.90		134.49
ROCE (使用資本利益率)	6.1%	6.7%			6.7%
調整後ネットD/Eレシオ	1.15	1.01			1.01
為替レート	米ドル (円)	105			105
(期中平均レート)	ユーロ (円)	124.07			125

※2022年3月期 (通期) における為替換算による影響額合計見込み：売上収益 ▲4億円 コア営業利益 +0億円

セグメント別業績見通し

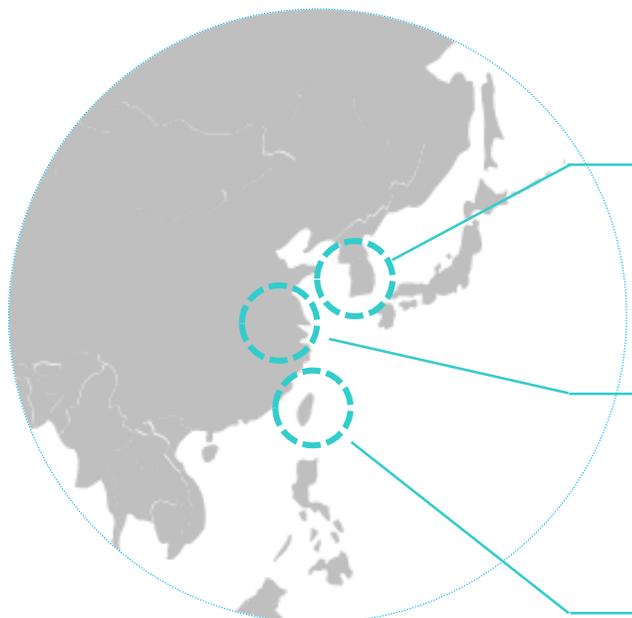
	2021年3月期 実績 通期*	2022年3月期 見通し		前期比			2022年3月期 見通し
		通期(維持)	構成比	増減額	増減率	為替影響	通期(旧)
(単位：億円)			(11月1日発表)				(5月10日発表)
日本ガス事業	売上収益	3,419	3,600	41.6%	+181	+5.3%	3,600
	セグメント利益	298	311	32.4%	+13	+4.1%	311
	セグメント利益率	8.7%	8.6%				8.6%
米国ガス事業	売上収益	1,899	1,980	22.9%	+81	+4.2%	1,980
	セグメント利益	231	236	24.6%	+5	+2.0%	236
	セグメント利益率	12.2%	11.9%			-16	11.9%
欧州ガス事業	売上収益	1,600	1,730	20.0%	+130	+8.1%	1,730
	セグメント利益	210	248	25.8%	+38	+18.0%	248
	セグメント利益率	13.1%	14.3%			+1	14.3%
アジア・オセアニアガス事業	売上収益	1,020	1,060	12.3%	+40	+3.9%	1,060
	セグメント利益	89	102	10.6%	+13	+14.3%	102
	セグメント利益率	8.7%	9.6%				9.6%
サーモス	売上収益	239	280	3.2%	+41	+16.8%	280
	セグメント利益	51	74	7.7%	+23	+43.2%	74
	セグメント利益率	21.6%	26.4%				26.4%
調整額	売上収益	2	—	—	—	—	—
	セグメント利益	-8	-11	-1.1%	-3	—	-11
連結合計	売上収益	8,182	8,650	100.0%	+468	+5.7%	8,650
	セグメント利益	872	960	100.0%	+88	+10.0%	960
	コア営業利益率	10.7%	11.1%			-4	11.1%

* 組換え再表示：2022年3月期でセグメント区分の内訳組換えを実施したため、2021年3月期は新たなセグメント集計基準で再表示

成長エンジン：エレクトロニクス事業領域

東アジア地域では各事業エリアから調達した様々な電子材料ガスの輸入販売を実施。ロジスティクスを拡充し、顧客の確実なオペレーションをサポート。

東アジア地域での事業展開



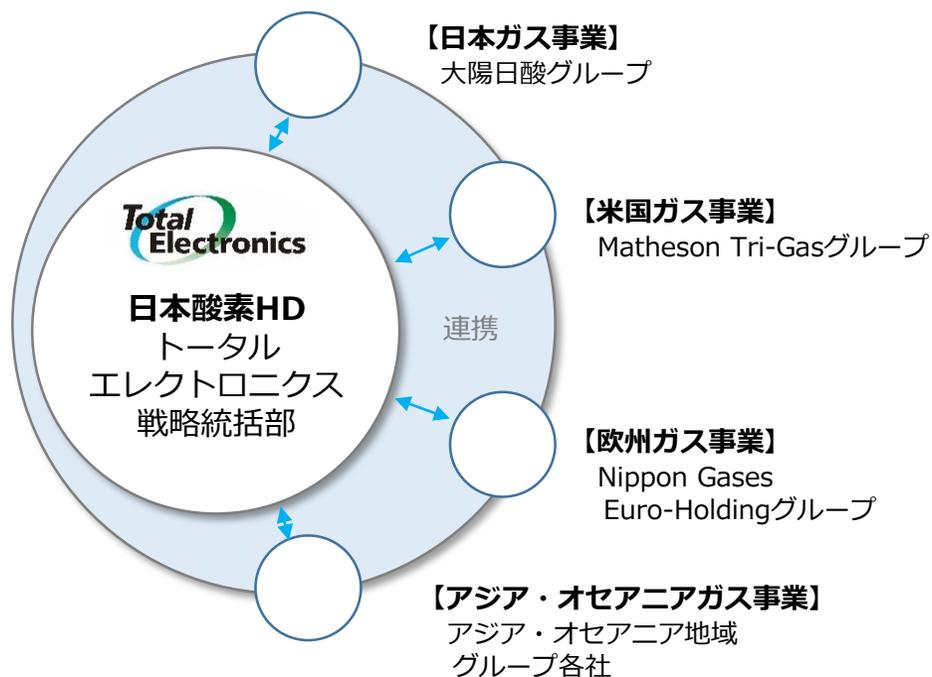
地域	特徴
韓国	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での最先端のライン分析設備。分析と分析表の発行を自動化しデータ活用と信頼性を向上 ・アジア各国、米国向けに製品を供給
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客の隣接地に設置した専用倉庫の運営や配送サービス、顧客サイトでの在庫管理、容器交換、ガス・薬液管理などのサイトサービスを提供 ・2019年より、当社グループ（日本、米国、韓国）から製造技術、品質管理技術を導入した工場を設立し、電子材料ガスの製造事業を開始
台湾	<ul style="list-style-type: none"> ・エレクトロニクス向けの精製器、供給設備などの機器を製作 ・高度な配管工事を提供する機能を持ち、総合的なサービスを展開 ・各種電子材料ガスの在庫管理

成長戦略：Total Electronics Strategy

戦略実行の先にある姿

- グローバル半導体メーカーの高度化・厳格化する仕様に完璧に対応する。
- 世界のあらゆる地域で高い顧客満足度を実現する。

早期実現へのアプローチ



緊密なグループ連携

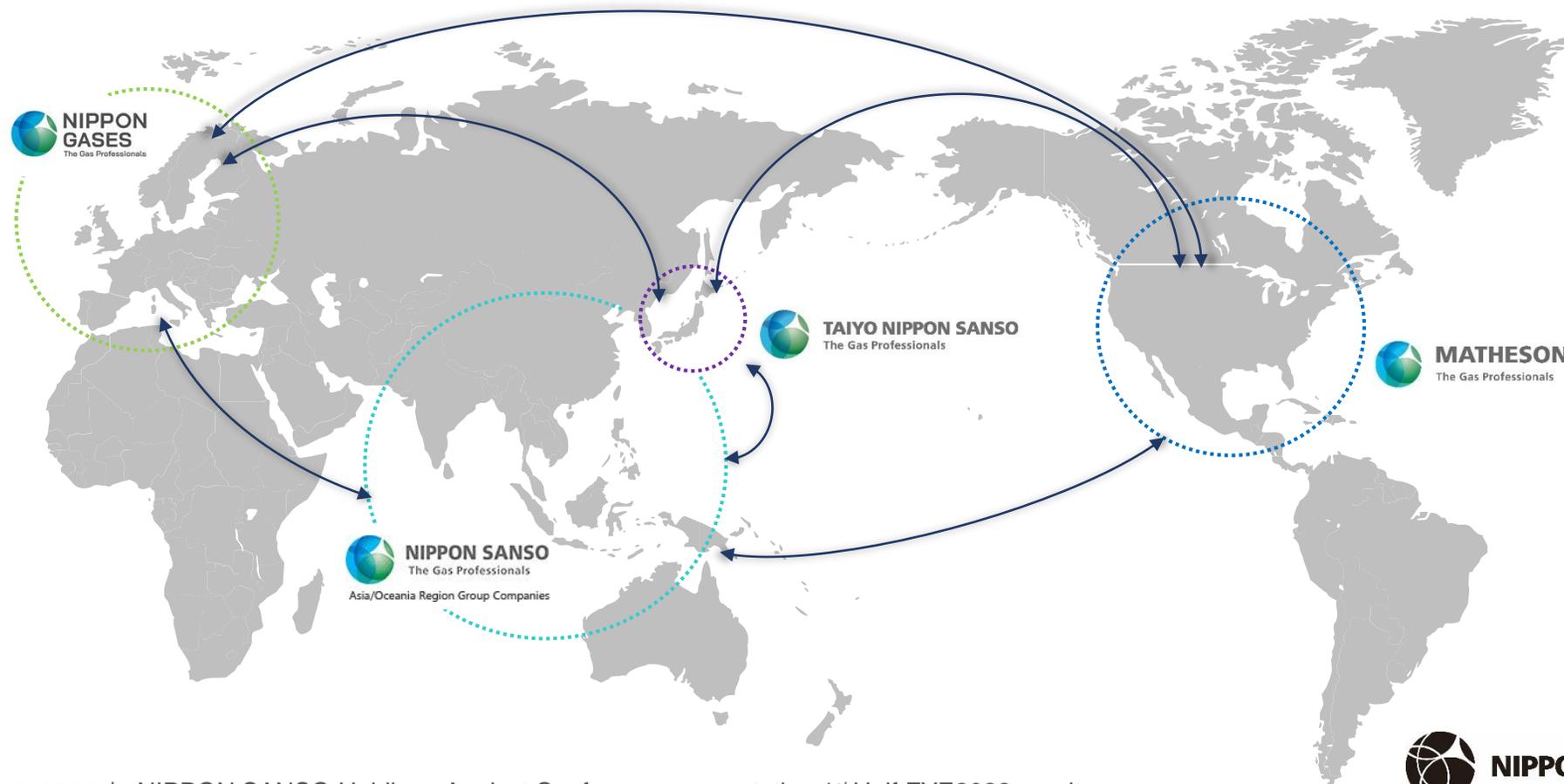
- 1 | 電子材料ガスの製造供給に関するデータの共有と活用
- 2 | 蓄積してきたCoA (Certificate of Analysis) 情報をグローバルで顧客単位で統合管理
- 3 | グローバルな顧客の安定操業をDXによる効率的・安定的な供給でサポート

**The Gas Professionalsとして
顧客の次世代半導体に向けた革新をサポート**

グローバルで旺盛な電子材料ガス需要に応える

成長投資の実行

- 世界的なエレクトロニクス需要の増加に対応した電子材料ガスの製造・供給能力強化
- グローバルなサプライチェーンを強化し、供給ネットワーク全体の信頼性向上



新たな事業機会：カーボンニュートラルへの貢献

当社グループの
めざす姿
(2030年に向けて)

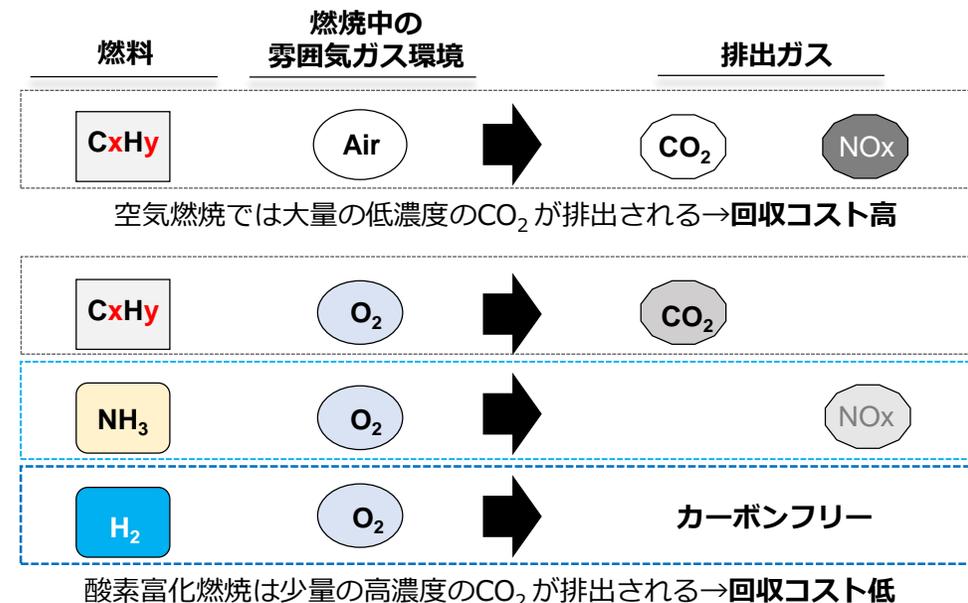
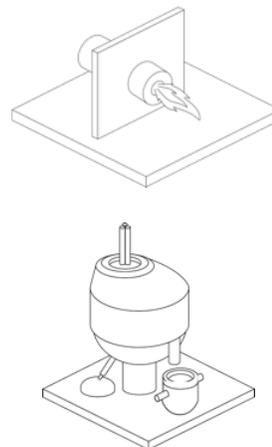
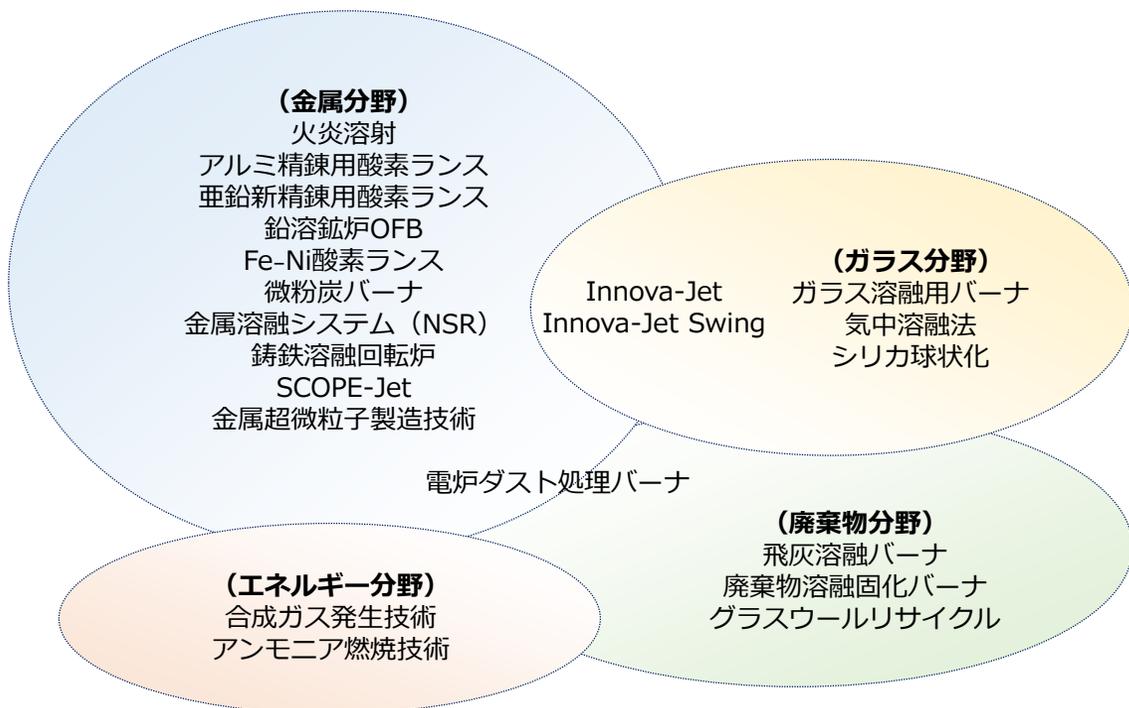
カーボンニュートラル社会実現に不可欠とされるソリューションプロバイダー
燃焼効率アップによるエネルギー有効活用、HyCO事業による水素供給、CO₂回収によるブルー水素化と炭素の固定化



環境負荷低減に寄与する燃焼技術

50年間にわたり製造業の省エネルギーに寄与

- 電気炉の省エネ化
- PCB (Polychlorinated Biphenyl : ポリ塩化ビフェニル) 分解
- アルミ精錬、鉛精錬
- ガラス溶解



1. 空気燃焼から酸素富化燃焼へ
2. 酸素燃焼技術を水素、アンモニアなどカーボンフリー燃料に適用

⇒ **カーボンニュートラル社会実現に貢献**

1. 2022年3月期 上半期
事業概況

2. 2022年3月期 通期
事業見通し

3. **財務プロフィール**

4. 質疑応答

3. 財務プロフィール



執行役員
財務・経理室長 兼 CFO

Alan Draper

財務マネジメント

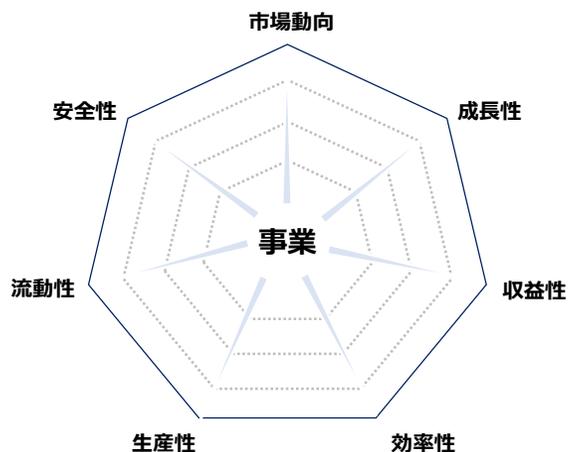
基本的な考え方

- 短期、中期、長期的にグループ・事業全体の経営資源を適切に配分する
- 市場の動向に対応するための迅速な意思決定
- 地域の状況を理解し、それに対応するための柔軟な分散型構造の実現

マネジメントフロー

1

収益性を高めるための道具、レバー、ベスト・プラクティスの開発と共有



2

グループで持続的成長を可能とする最適な資源配分を実行

- 使用資本構成の改善
- 規模の経済性×事業密度の改善
- グループ相乗効果の追求
- 確実な収益と利益が見込める案件への優先順位付けと投資
- 非連続な事業機会と変化への対応（含むM&A）

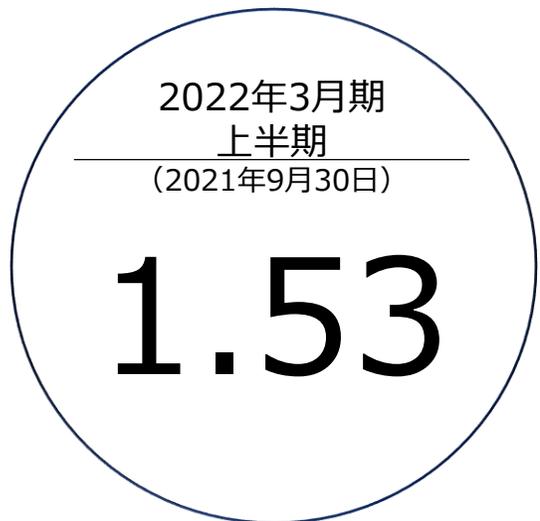
3

収益性の高い持続的な成長



負債・資本構成状況

ネット・デット・エクイティ・レシオ
(一般的なネットD/Eレシオ)



純有利子負債
親会社の所有者に帰属する持分

調整後
ネット・デット・エクイティ・レシオ
(従来から開示している指標)



2022年3月期 通期予想
(2022年3月31日)

1.01

純有利子負債 — 資本性負債*
親会社の所有者に帰属する持分 + 資本性負債*

財務管理
ネット・デット・エクイティ・レシオ
(社内財務規律管理指標)



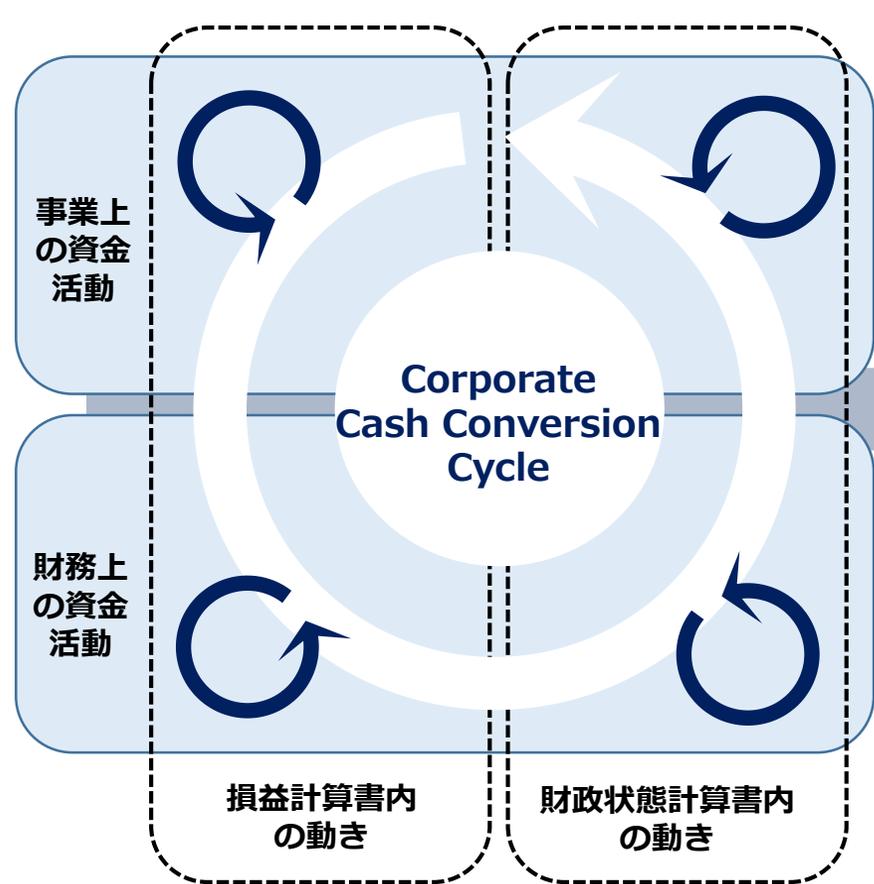
純有利子負債 — リース債務 — 資本性負債*
親会社の所有者に帰属する持分
— その他の資本構成要素 + 資本性負債*

* 資本性負債：格付機関により、ハイブリッドファイナンスで調達した金額（2,500億円）の50%を「資本」として認められている部分の当社内呼称

資源配分

持続可能な未来のために、資本と資源を配分する。

キャッシュジェネレーション



🔄 : 資金の流れ

財務健全化

レバレッジの早期低下

— 金融費用の低減

成長投資

成長ドライバーへの投資

— 成長性・収益性・効率性の獲得

株主還元

安定的かつ業績連動を意識

— 株主・投資家の期待への成就

予想
調整後ネットD/Eレシオ
(2022年3月期末)

1.01

予想
設備投資概算
(資金ベース：億円)

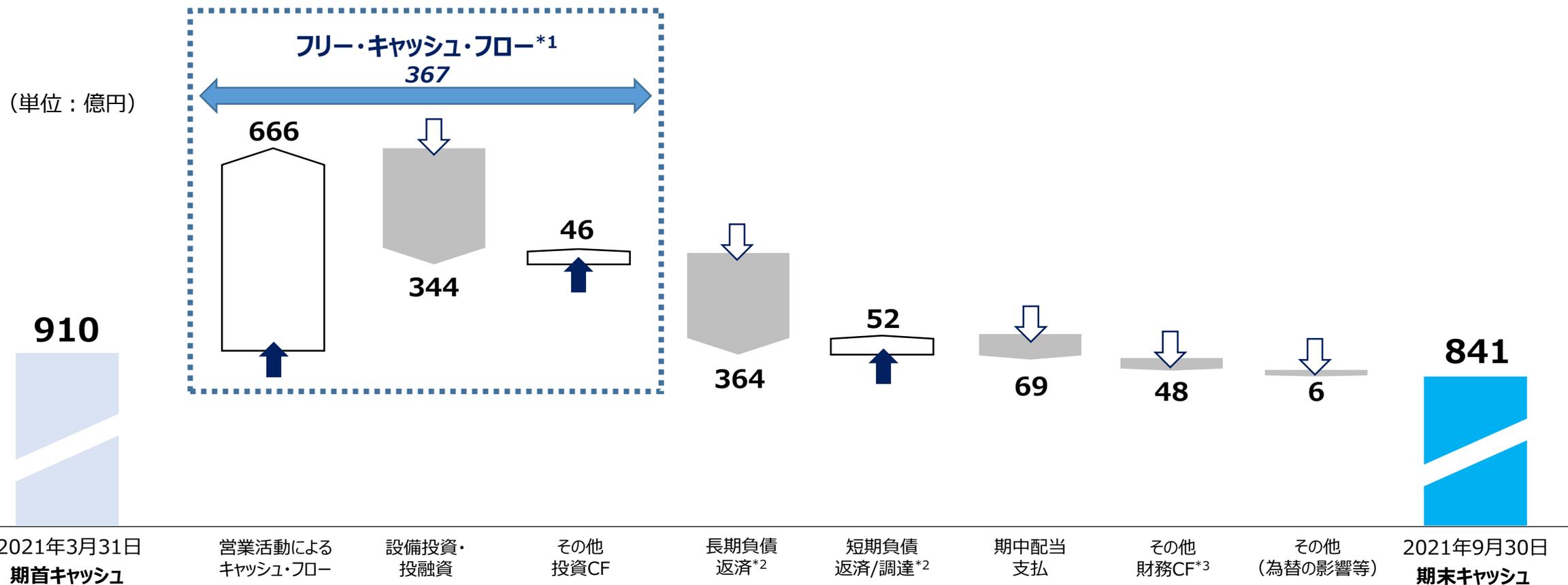
800

予想
年間配当額
(円)

32

キャッシュ・フロー（上半期）

着実にフリー・キャッシュ・フローを創出し、確実に配当金を支払い、負債の削減を実行



*1 フリー・キャッシュ・フロー：IFRSに基づいて作成した連結キャッシュ・フロー計算書を内部管理の指標として再構成した項目。詳細はAppendix_P.31参照

*2 長期・短期負債返済/調達：キャッシュ支払・調達金額を記載

*3 その他：リースによる支出、投資の取得による支出等を含む

Closing remarks



代表取締役社長 CEO
濱田 敏彦

質疑応答



代表取締役社長 CEO
濱田 敏彦



取締役
大陽日酸株式会社
代表取締役社長
永田 研二



サーモス株式会社
代表取締役社長
片岡 有二



常務執行役員
経営企画室長
諸石 努



常務執行役員
サステナビリティ統括室長
兼 CSO
(Chief Sustainability Officer)
三木 健



執行役員
財務・経営室長
兼 CFO
(Chief Financial Officer)
Alan Draper

The Gas Professionals

Appendix

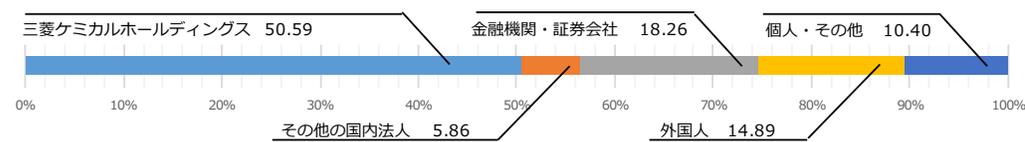
会社概要 (2021年3月31日現在)

商号 (英文名称)	日本酸素ホールディングス株式会社 Nippon Sanso Holdings Corporation
設立	明治43年(1910年) 10月30日
本社所在地	東京都品川区小山1-3-26
電話番号	03-5788-8500 (代表)
代表者	代表取締役社長 CEO 濱田 敏彦
資本金	373億44百万円

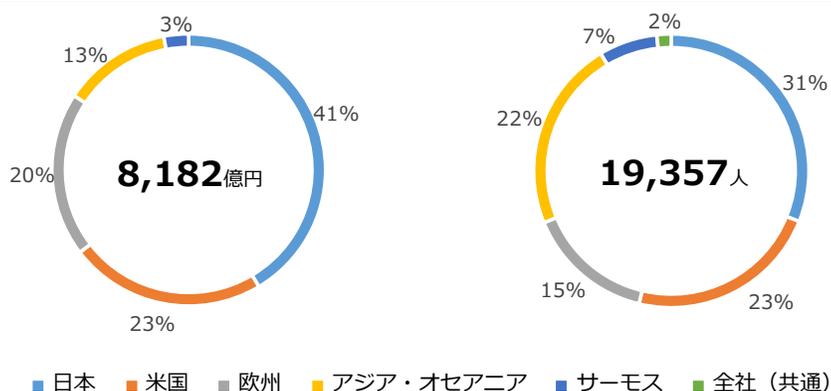
株式情報 (2021年3月31日現在)

発行済み株式総数	433,092,837 株
株主数	16,205 人
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	4091.T

株式所有者別割合 (%)



セグメント別売上割合および連結従業員数構成比 (2021年3月31日現在)



企業理念

The Gas Professionals

グループ理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

Proactive. Innovative. Collaborative.

Making life better through gas technology.

グループビジョン

私たちは、革新的なガスソリューションにより
社会に新たな価値を提供し、
あらゆる産業の発展に貢献すると共に、
人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas solutions that increase industrial productivity, enhance human well-being and contribute to a more sustainable future.

主要事業

産業ガス事業



エレクトロニクス事業



サーモス事業



2022年3月期 業績見通し (IFRS)

売上収益	8,650 億円	親会社の所有者に帰属する当期利益	582 億円
営業利益	965 億円	EPS (1株あたり当期利益)	134.49 円

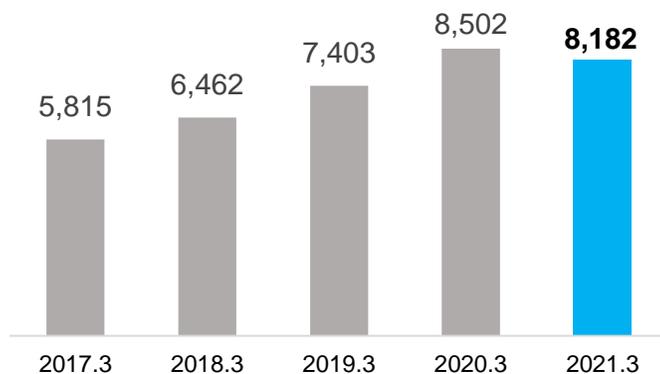
フリー・キャッシュ・フロー及び負債の状況

(単位：億円)	2020年3月期	2021年3月期	前期比		2022年3月期	予想比	
	通期	通期	増減額	増減率	通期予想	増減額	増減率
税引前当期利益	791	777	-14	-1.8%	860	+83	+10.7%
減価償却費・償却費	837	863	+26		870	+7	
運転資金増減	31	5	-26		-48	-53	
その他	-160	-153	+7		-143	+10	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,500	1,492	-8	-0.6%	1,538	+46	+3.1%
設備投資	-728	-600	+128		-773	-173	
投融資	-5	-7	-2		-	-	
その他（資産売却等）	107	11	-96		-30	-41	
投資活動によるキャッシュ・フロー	-626	-596	+30	-4.7%	-804	-208	+34.7%
フリー・キャッシュ・フロー	874	895	+21	+2.4%	734	-161	-18.0%
(負債の状況)							
純有利子負債	8,983	8,581	-402		7,858	-723 *	
（うちハイブリッドファイナンス調達額）	2,500	2,500	+0		2,500	+0	
調整後ネットD/Eレシオ	1.45	1.15	-0.30		1.01	-0.14	

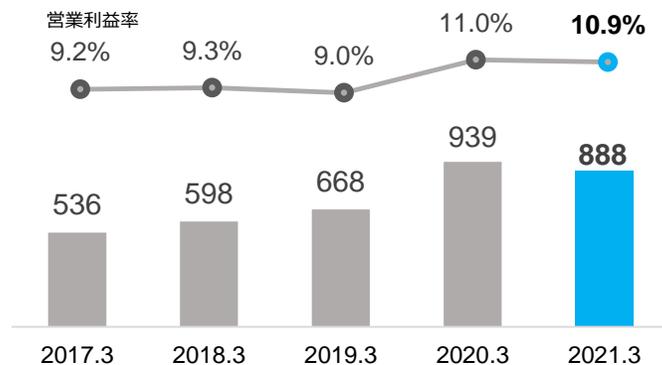
* この金額には、為替換算の影響により175億円の減少が含まれております。

過去5か年の業績推移

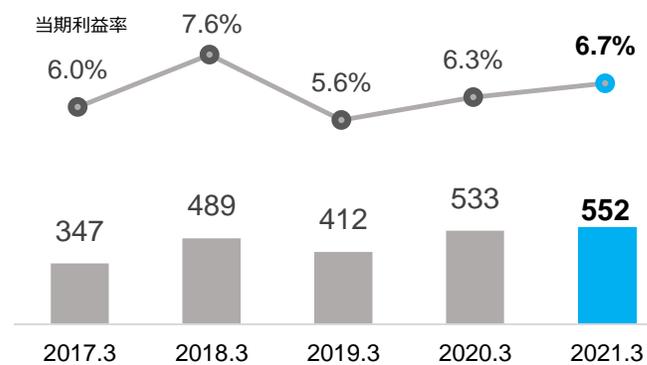
売上収益 (億円)



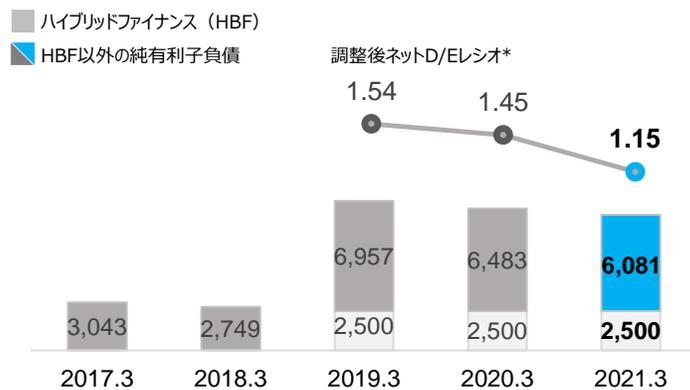
営業利益 (IFRS) (億円)



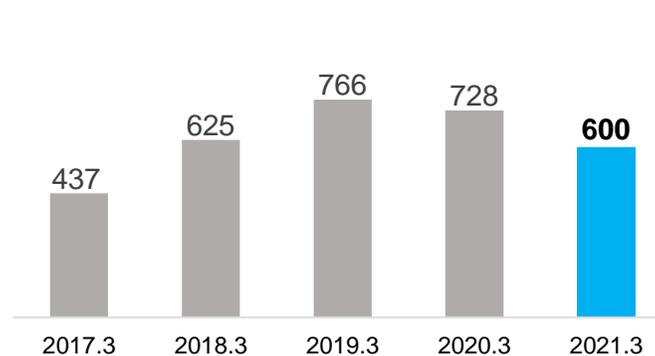
親会社の所有者に帰属する当期利益 (億円)



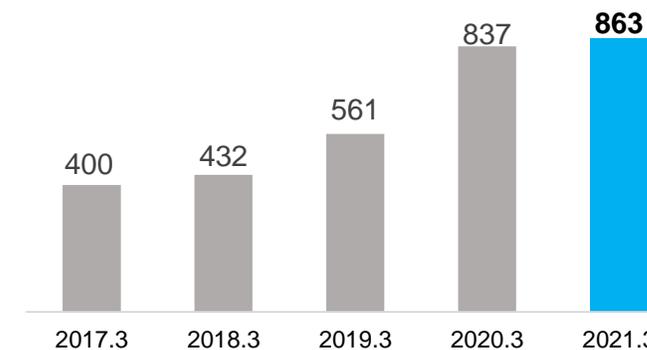
純有利子負債 (億円)



設備投資額 (億円)



減価償却額・償却費 (億円)

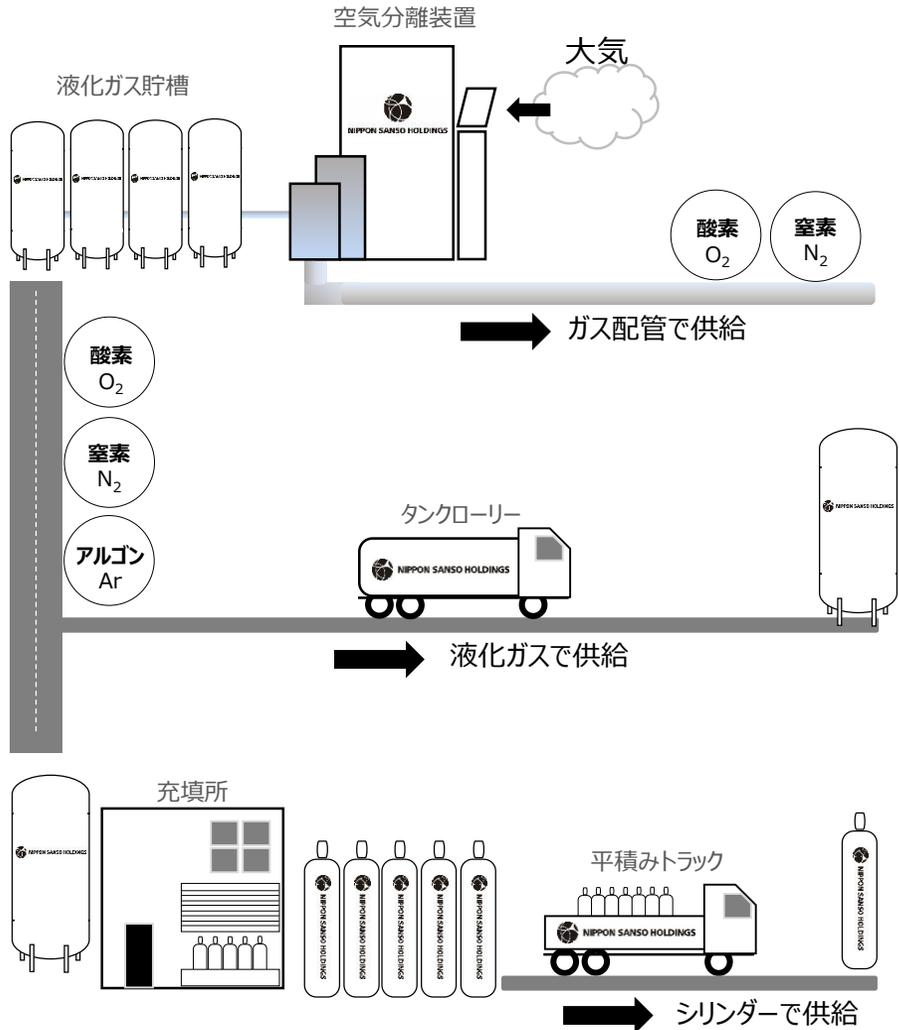


*調整後ネットD/Eレシオ：格付機関により、HBFで調達した金額の50%を「資本」として認められていますので、この部分を考慮して算出した安全性（財務健全性）を示す指標です。

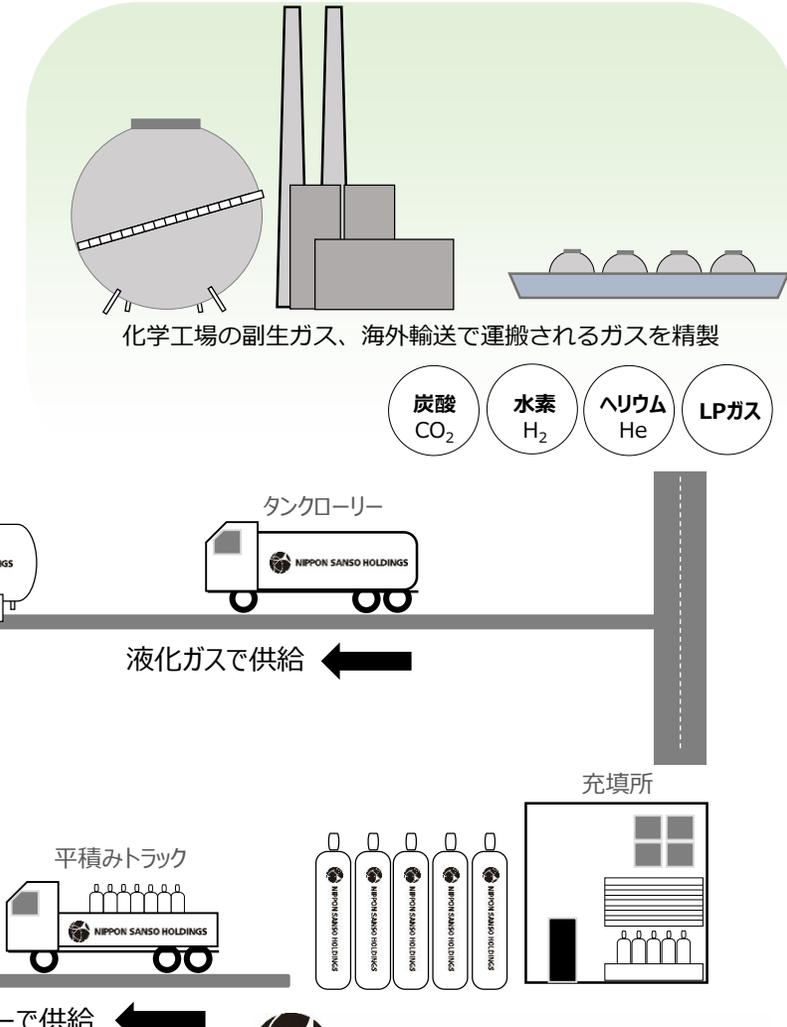
*2019年3月期までは工事ベースでの計上、2020年3月期以降は資金ベースでの計上です。

産業ガスの供給モデル

エアセパレートガス



その他のガス



オンサイト On-site

主要な供給先 (業種)

鉄鋼 石油化学 石油精製

客先の隣接地に生産工場を設置し、配管を直接繋いで、常時供給する形態 (大規模供給)

バルク Bulk

主要な供給先 (業種)

自動車 造船 ガラス・製紙
 建設機械 製薬・医療 食品・飲料
 液晶パネル 太陽電池 半導体

客先構内に液化ガスの貯槽を設置し、ガスの利用方法に応じて供給する形態 (中規模供給)

パッケージ Packaged

主要な供給先 (業種)

在宅医療 先端医療 公衆衛生
 技術開発 研究開発 建設工事

客先に充填容器 (シリンダー) を配送し、ガスの利用方法に応じて供給する形態 (小規模供給)



THERMOS

おいしい温度。サーモス

届けてきたのは、毎日のうれしい気持ち。

真夏の午後に飲むスポーツドリンク

しんと冷える朝に飲むコーヒー

仕事でひと息ついた時に食べる、温かいお弁当。

100年以上もの間、届けてきたのは「おいしいね」のすてきな笑顔。

これからもずっと一緒に。

さらに詳しい情報は、こちらまでお問い合わせください。

報道関係者の皆さま

人事・秘書室 広報部

Tel : 03-5788-8513

E-mail : Nshd.info@nipponsanso-hd.co.jp

投資家・株主の皆さま

財務・経理室 IR部

Tel : 03-5788-8512

E-mail : Nshd.ir@nipponsanso-hd.co.jp

今後の投資家向け開催予定イベント

2022年3月期 第3四半期決算発表

2022年 2月 2日 (水)

次期中期経営計画 IR説明会

2022年 3月～5月予定

www.nipponsanso-hd.co.jp

日本酸素ホールディングス株式会社 (証券コード : 4091)

本社所在地 : 〒142-0062 東京都品川区小山1-3-26



NIPPON SANZO HOLDINGS

The Gas Professionals

© 2021 NIPPON SANZO Holdings Corporation All rights reserved